

令和元年度 坂井市立東十郷小学校 学校評価総合シート

項目	重点目標	回答者	アンケート	目標指数	結果指数	成果と課題	改善策・向上策
			No.:項目	A+B(%)	A+B(%)		
1 学習指導 「 学ぶ子 」	読書習慣の定着	教職員	⑦読書	90	92	・校内での朝読書の習慣が身についている。また、ボランティアによる読み聞かせによって、読書への関心が高まっている。 ・家での読書習慣がない児童が多い。	・読書習慣を身につけるために、たくさん本を読んでいる児童を認める活動を行う。 ・ノーテレビ、ノーゲームデーを行い、家庭での読書時間を確保する。
		児童	⑩読書	90	86		
		保護者	⑨読書	90	55		
	基礎基本の定着とわかる授業	教職員	⑥わかる授業	90	100	・振り返り活動を取り入れたことで、児童の学習状況を把握しながら、授業改善に取り組むことができている。また、児童も自身が学習した内容を振り返ることで、学んだことを定着させることができている。 ・自分の考えを持って授業に取り組んでいる児童が多く、友達の話をしっかり聞くことができている。	・基礎基本の充実を図るために郷の子テストを継続する。 ・振り返り活動を継続し、児童の実態に合わせたよりわかる授業を目指す。 ・ペアやグループ内で自分の意見を必ず言う機会を設け、自分の言葉で表現する時間を確保する。 ・自分の意見や考えを言いやすい学級作りを行う。
			⑨意見や考え	90	88		
		児童	⑨授業理解	90	94		
			⑪話の聞き方	90	97		
			⑫自分の考え	90	87		
		保護者	⑧授業理解	90	90		
	家庭学習の習慣	教職員	⑧家庭学習	100	100	・学校での家庭学習の提出率は高い。一方で、保護者からの声かけを必要とする児童が多く、自主的に取り組む児童が少ない。	・宿題の量を10分×学年程度で統一し、家庭で学習に向かう習慣を身につけていく。
		児童	⑬家庭学習	90	92		
		保護者	⑩家庭学習	90	68		
2 生活指導 「 素直な子 」	あいさつ・正しい言葉づかい	教職員	⑫挨拶・言葉遣い	90	56	・しっかりとあいさつができている児童と全くあいさつをしない児童の二極化が起きている。また、あいさつができる児童は、進んで顔を見てあいさつができている。 ・先生や上級生に対して、敬語で話することができる児童が増えてきた。 ・乱暴な言葉を使う児童がみられ、それがきっかけで友達ともめてしまう児童が見られる。 ・友達の名前を呼び捨てにする児童は、減ってきた。	・朝礼や朝の会などで、元気にあいさつできている児童を褒める。 ・教員側から、率先してあいさつを行い児童の模範になるように心がける。 ・朝礼や全校集会で、あいさつの大切を呼びかけていく。 ・あいさつをすることが自然である雰囲気をつくる。 ・乱暴な言葉を言われたときの相手の気持ちになって考えられるように、日々の学校生活や道徳の授業などで指導していく。
			児童	③あいさつ	90		
		⑤言葉使い		90	98		
		保護者		⑥あいさつ	90		
			⑦言葉使い	90	76		
	きまりを守り安全な生活	教職員	⑪楽しい学校生活	100	96	・生活委員会でやっている廊下を走る児童に声かけをする活動を継続的に行ったことで、廊下を走らず静かに歩くことができるようになった。 ・走る児童が特に多かった掃除の前は、清掃開始5分前に放送を入れることで、清掃場所に余裕を持っていけるようになり、走る児童が少なくなった。 ・時間を守ろうとする姿勢が見られるようになり、静かに授業を受けることができている。 ・学校の中が落ち着いて学習に取り組もうとする雰囲気になってきている。 ・スマートルールが守られず、YOU TU BEなどの動画を長時間見たり、ゲームをしたりする児童がいる。	・安全面に気をつけて行動することが、身についてきているので、これからも継続的に声かけを行っていく。 ・十郷っ子スマートルールを徹底し、ゲームの時間や動画を視聴する時間を減らすように家庭と連携していく。 ・清掃面や生活面など良い点を、集会や朝礼などで紹介し、自己有用感を高めていく。
			⑬廊下を走る	80	72		
		児童	①楽しい学校生活	100	97		
			②安全な集団登校	90	96		
			⑥掃除	90	96		
			⑦きまりを守る	100	97		
			⑧廊下を走らない	90	94		
保護者	⑤楽しい学校生活	100	99				

令和元年度 坂井市立東十郷小学校 学校評価総合シート

項目	重点目標	回答者	アンケート	目標指数	結果指数	成果と課題	改善策・向上策					
			No.: 項目	A+B (%)	A+B (%)							
2 生活指導 「素直な子」	豊かな心 いじめ未然防止	教職員	⑤いじめのない学校	100	96	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良くすることができていると答える児童が97%と高い割合となっている。安心して学校生活が送れている結果が現れている。 ・児童に対して、定期的にいじめアンケートを行うことで、いじめの早期発見、早期解決を行うことができた。 ・不登校は一人もいない。しかし、不登校傾向の児童は各学年数名はいる。 ・月一回の情報交換では、伝えられないこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もいじめアンケートを行い、早期発見や未然防止に努めていくようにする。 ・些細なことでもいじめにつながる事案については、情報を共有できるようにしていく体制をとる。また、いじめが起きた場合には、「いじめサポート班を立ち上げ、学校全体で対応していく。 ・不登校傾向の児童に関しては、学年が上がる際に、引き継ぎをしっかりと行う。また、教室内で自己有用感を持つような活動なども取り入れていく。 ・情報交換の場を職朝などにとり入れることで共通理解ができるようになる。 					
			⑩人間関係に配慮	100	100							
		児童	4友達仲良く	100	97							
		保護者	④いじめ不登校	100	90							
			⑭学校の話をする	90	88							
3 健康な生活 「元気な子」	体力づくりの推進	教職員	⑯体力向上	100	88	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年が朝インターバル走を行ったことにより、体力テストの50m走、20mシャトルランといった走力に向上が見られた。また、体育の学習において柔軟体操を毎時間取り入れることで、柔軟性の向上も見られた。 ・いきいきタイムやペア学年活動により、児童が協力し楽しく運動に親しむ機会を多数設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業やいきいきタイム、ペア学年で投運動の充実を図ることで、投力の向上を目指したい。 ・天気の良い日は外で遊ぶ機会を増やせるよう、外遊びを推奨していく。 ・体育委員会がなわとび教室を開くことで、悪天候でも体を動かせるようにしていきたい。 					
		児童	⑯進んで運動	90	98							
		保護者	⑬体を動かす	90	81							
	健康的な生活習慣	教職員	⑭早寝早起き	100	92			<ul style="list-style-type: none"> ・朝ご飯を食べるという習慣は家庭でも意識が高く、児童、学校、保護者それぞれが高い結果となった。 ・虫歯の治療率は前年度より下がっているため、養護教諭を中心とした家庭への働きかけをしていく。 ・学校での怪我の件数が増えているので、生徒指導と連携をして、ルールを守って生活するように指導する。 ・早寝早起きの時間は児童と保護者の回答で結果の差が大きい。保護者が働きかけてもなかなか寝ない、起きない児童がいたり、習い事により遅くなったりしてしまう日があったりすると思われる。そのため、学校でも自分で早寝早起きをするように働きかけをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会や保健委員会による啓発運動などで、朝ご飯や早寝早起きを児童自身が意識し、実行できるように働きかけをしていく。また、意識が低い児童に対しては、個別指導も行っていく。 ・目の体操を清掃活動後に全学年一斉で行っている。しかし、成果が視力検査に明確に表れるものではない。運動や学習につながる視力を向上させるために継続していきたい。 ・にこいきチェックを学期に一回行うことで、家庭と連携を取って良い生活習慣が身につくようにする。 ・保健ファイルを保健指導後に持ち帰り、学習内容を保護者と共有していく。 			
			児童	⑭早寝早起き	100					89		
		保護者	⑮朝ごはん	100	99							
			⑪早寝早起き	100	80							
		⑫朝ごはん	100	97								
		4 開かれた学校づくり 「信頼される学校」	教育活動の発信・学校公開	教職員	④学校公開					95	96	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ閲覧指数が低下しているが、ホームページのアクセス数を見ると昨年度の1.6倍に増えている。見る人は何度も見るが、見ない人は全く見ないという二極化が進んでいる。また、配布物に目を通す保護者も減少してきており、積極的に学校教育に関わろうとする保護者の姿勢が失われつつある。それでも、情報発信については指数が高いのは、メール配信システムが有効に機能しているからだろう。 ・学校行事参加については高い指数を示しており、秋の資源回収を土曜日に開催したことも概ね好評であった。学校公開日やPTA行事を土・日曜日で振り分けたり、保護者会を2日に分けたりしていることで、保護者が参加しやすいようになっていると思われる。しかし、授業参観を伴わないPTA行事等への参加率は年々減少傾向にある。
	保護者				②情報発信					100	100	
	保護者			②情報発信	100					98		
				⑮学校行事参加	90					91		
⑯配布物				100	88							
地域人材の活用	教職員			③地域人材の活用	100	100	<ul style="list-style-type: none"> ・高い指数を示しているものの、保護者の指数が昨年度を5pt下回っている。地域の施設や人材については、昨年同様、たくさんのボランティアの方々にご協力いただき、校外学習等も行っているが、情報発信不足であったようだ。 ・新たな地域人材を確保するためにも、地域社会との連携を進めていく必要がある。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでお知らせしても半数以上の保護者が見ない状況である。情報発信の在り方を見直さなくてはならない。 ・教職員も積極的に地域に関わりながら、地域資源の確保に努めていきたい。 		
	保護者		③地域人材の活用	100	92							
危機管理	教職員		①登下校の安全	100	100	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、集団下校を徹底し、月2回の登校指導と学期1～2回の下校訓練を行い、安全確保のため樹木の伐採・剪定も行った。大きな事故や事件も起きていないが、保護者指数は昨年度を9ptも下回った。昨年度は、地震や不審者の影響で、下校訓練を何度も行ったため、今年は少なかった印象があるかもしれない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、地域の方と協力して登下校の見守り活動を継続すると共に、通学路の安全性については点検を怠らないようにしたい。 ・地域ボランティアの方々を毎日見守り活動をしていただいていることなどは、もっと広報していかななくてはならない。 				
			保護者	①登下校の安全	100				87			

令和元年度 坂井市立東十郷小学校 学校評価総合シート

◆学校関係者による評価

	項 目	委員より提案された意見
地域・家庭・学校評議員会で出された意見	読書習慣の定着	・学校教育だけでは限界があるとは思いますが、家庭での読書週間は「家庭の教育力」にも大きく関わってくるので、すぐには向上しないと思うが、今後も地道な指導を継続してもらいたい。
	基礎基本の定着とわかる授業	・トップクラスの学力ということで、先生方のご尽力には頭が下がります。一方で「将来の夢や目標を持っている」の項目が低いことが気になります。スポーツ選手をめざす等の目標は実現性が難しいので、持っている子と持っていない子の違いはあまりないかもしれま
	家庭学習の習慣	・児童の評価は92%と高くなっているが、我が孫を見ていると、なかなか宿題に取り掛からない様子が見られる。他の家庭でも同様だと考えると、家庭での声掛けが大切になってくると思われる。
	あいさつ・正しい言葉づかい	・評価では開きがあるようだが、下校時の様子を見てみると、上級生が大きな声であいさつを行い、下級生のお手本になっている。言葉遣いについては、周りの大人たちが正しく使っているかどうかも大きいと思う。親たちがお手本になってほしい。
	きまりを守り安全な生活	・「きまりを守る」ことは大切ですが、きまりができた理由を納得し、自主的に守ることができればもっと良いと思う。少しはめをはずしてものびのびと育ててほしい。
	いじめ未然防止	・「いじめアンケート」の効果が出ている様子にほっと一安心です。ちょっとしてきっかけがいじめになることがあるので、そんな時に子供たちがどう対応するか、やはりみんなで考える場も必要だと考える。
	体力づくりの推進	・運動することで、強い身体づくりと心が育つと思う。いろいろな形で運動する機会を作ってもらいたい。
	健康的な生活習慣	・「早寝・早起き・朝ごはん」が目標になり、とくに朝ごはんの大切さを知ったようです。1日の良いスタートに必要なことなので、何事にも繰り返すは必要だと考える。
	教育活動の発信・学校公開	・ホームページだけの情報発信はやはり見る人が限られてしまい、限界があると思います。紙で配られるお便りの昔ながらの情報発信も継続しながら、メールでの情報発信で情報量を補うことで、学校の様子はよく伝わるように思う。
	地域人材の活用	・地域人材の活用は評価ポイントが高くなるように、今後も続けてもらいたい。やはり地域の人たちが子供たちを見守っている実感があり、とても良いと思う。
危機管理	・地域の見守りはもちろん大切であるが、子ども自身に「自分の身は自分で守る」という、生きる力をつけさせてもらいたい。	

◆保護者の皆様から寄せられた主な記述された意見への回答

○行事等の開催日について

4月のPTA総会資料に年間の主な学校行事もいれてあります。またホームページでも紹介しています。それらを、ご覧いただき参考にいただけるとありがたいです。各学年のお便りでも、大まかな日程については1ヶ月前にはご案内できるようにいたします。
11月に行事が集中しているというご意見をいただきましたので、検討を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症による臨時休業や行事の移動等の影響で、今年は秋に偏るかもしれませんが、できるだけバランスをとって行事を配置してけるように努力しますのでご理解ください。

○OPTA主催行事について

資源回収によって得られる50万円近い収入は、本校の教育活動を運営する上で無くてはならないものになっています。こうした事情を鑑みて、来年度も年に2回の実施させていただきます。学校評価とあわせて行ったアンケートの結果は、ほぼ半数でしたので、5月17日(日)と9月26日(土)に行う予定です。
各学年で実施される親子の集いについても見直してはどうかという意見が寄せられました。そこで、PTA役員の方々と学校代表で現在の各学年の実施内容や参加率等もふまえて検討を行いました。来年度については現状のまま実施することとなりました。この件に関しましては状況を見ながら今後も検討を行って参ります。

○あいさつ、言葉遣いの指導について

「あいさつができない、言葉遣いがよくない」という意見が寄せられました。保護者アンケートの数値から多くの保護者の方が気になっている部分です。学校としては家庭や地域とも協力しながら、どんな人にも出会ったらあいさつができるように指導を行っていきたくと考えております。また、朝礼や朝の会などで、元気にあいさつできている児童を褒めたり、乱暴な言葉を言われたときの相手の気持ちになって考えられるように、日々の学校生活や道徳の授業などで指導したりしながら、お互いを認められる学校作りに取り組んで参ります。